

深川市パブリックコメントによる意見募集の結果公表

意見募集結果及び寄せられた意見に対する市の考え方について次のとおり公表します。

【意見募集の集計結果】

1	政策等の名称	深川市新庁舎建設基本設計		
2	意見募集期間	令和2年10月8日～令和2年11月6日		
3	意見の件数(提出者数)	10件(4人)		
4	意見の取扱い (対応内容の分類)	分類	分類内容	件数
		修正	案を修正するもの	0件
		既記載	既に案に盛り込んでいるもの	3件
		参考	今後の参考とするもの	4件
		その他	意見として伺ったもの	3件
5	意見の受け取り方法	持参		2人
		郵便		0人
		ファクシミリ		1人
		電子メール		1人

【市民意見等の概要とそれに対する市の考え方】

No.	意見等の概要	意見の 取扱 分類	意見等に対する市の考え方
1	<p>新庁舎の外観デザインは「ダサイ」「いま風じゃない」「吹き抜け等が無い」など、昭和の建物のような印象を受け残念である。近年建設した他自治体の庁舎を参考に、検討し直すことができないか。</p> <p>この先何十年も使用する庁舎のため、建築デザイナーに協力を仰ぎ、色々な意見やデザインを募集するなどして、コストをかけても良かったのではないか。</p> <p>外観のデザインが素晴らしければ、深川の自慢にもなりSNSで発信されるなどの効果も期待できるのでとても残念です。</p>	参考	<p>昨年度の市民アンケート調査では、「施設整備や維持管理コストの抑制」という回答が多く、「デザインより機能性を重視」などの意見も数多く出されていました。また、昨年度の市民説明会では「デザインが多少悪くても頑丈で使い勝手の良い建物にして欲しい」との意見もありました。このことから、デザイン性よりも、耐久性や使いやすさ、コスト面等を重視して、庁舎外観等の検討を進めたところです。</p> <p>外観については、さまざまなご意見がありますので、コストや利便性等に関わる内容を大きく見直すことは難しいとは考えますが、ご意見を参考に今後の実施設計を進めてまいります。</p>
2	<p>庁舎外観は落ち着いた色合いだが、外壁にこれぞ深川とわかるように「こめっち」や「深川を代表する農畜産物(米・ソバ・りんご・きゅうり・花卉・豚)」等の絵を描いてはどうか。</p>		

3	<p>新庁舎と健康福祉センターデ・アイが別棟となっているが、一度外に出て行き来することになり、雨や雪が降った際などは不便である。なぜ今さら別々の建物にしなければいけないのか。</p> <p>南北に通り抜けられる通路は、あれば便利ではあるが、無ければ回りこめば良いだけのことであるので、絶対に作らなければいけないのか。</p> <p>別々の建物を行き来しなければならぬ方が不便だと感じる。</p>	その他	<p>現在、健康福祉センターデ・アイにある健康福祉課と高齢者支援課は、新庁舎1階に移転することになり、デ・アイ1階には市の執務室を設ける予定はありませんので、各種手続きで施設を行き来する不便さは解消されるかと考えております。</p> <p>また、新庁舎建設後も、デ・アイでは各種保健事業等を実施しますので、仮に渡り廊下を設置しデ・アイ正面玄関を廃止した場合は、デ・アイのみを利用する方に不便をおかけすることになります。</p> <p>さらに、新庁舎とデ・アイを渡り廊下で接続した場合、多額の経費が必要となりますので、渡り廊下等で接続はせずに、庇を設置する計画としています。</p> <p>また、デ・アイ正面玄関への動線を確保するとともに、来庁者の利便性も高まることから、南北に通り抜けができる通路を計画したところです。</p>
4	<p>正面玄関付近の思いやり駐車場に、他の施設で設けているような障がい者用の屋根を設置する予定はあるのか。中途半端なものを作るのはやめていただきたい。</p>	参考	<p>現時点の案では、思いやり駐車場に接する通路には庇（屋根）を設置しますが、思いやり駐車場には屋根を設ける計画とはなっておりません。</p> <p>ご意見のとおり、思いやり駐車場を利用される方が、雨天や降雪時等に余裕をもって乗降するためには、屋根がある方が望ましいとは思いますが、屋根の設置には、積雪に対する構造の検討をはじめ、維持管理やコスト的な課題等がありますので、これらのことも踏まえて、今後の実施設計において検討いたします。</p>
5	<p>他自治体の庁舎を視察し直接話を聞いて、使いやすい点や失敗した点等を参考にしていきたい。</p>	その他	<p>昨年度までに道内3カ所の庁舎を視察し、さらに設計を進めた本年度は6月から8月にかけて道内8カ所の庁舎と2カ所の民間施設を視察しました。</p> <p>視察では、整備内容や運用方法、反省点のほか、導入を検討している設備の効果や使用方法などを聞き取りして、基本設計検討の参考としたところです。</p>
6	<p>災害時の対策本部立上げ室のスペースは十分か。</p>	既記載	<p>災害時は、3階に設けた災害対策室に災害対策本部を設置する計画としており、災害対策本部を構成する全ての職員が入室して協議ができる部屋の広さを確保しています。</p>
7	<p>職員の休憩室は確保されているか。</p>	既記載	<p>3階に男女別の休養室を設け、昼食休憩や急に体調が優れなくなった場合などに利用する予定です。</p>

8	<p>石狩川が決壊した場合の水位に対して、庁舎の床の高さは大丈夫か。</p>	既記載	<p>100年に一度の災害の想定では、1m程度の浸水が見込まれますので、建物の床の高さを地盤面より30cm程度上げて、不足する分は防潮板を設置して、新庁舎への浸水を防ぎます。</p> <p>また、1,000年に一度の災害の場合は、2.5m程度の浸水が見込まれており、1階部分の浸水は避けられませんが、浸水時にも2階以上で執務機能が維持できるよう、災害対策本部機能や機械室等を上層階に設置するほか、電話・放送・受変電等の設備系統は1階と2階以上で系統分けを行う計画としています。</p>
9	<p>現庁舎の食堂や売店の位置・現状では、職員の福利厚生事業のためとしか捉えられず、市民は利用しづらいと思う。</p> <p>食堂は雇用の場ともなっているので、採算が取れて継続していけるよう、市で援助してはどうか。</p> <p>食堂の継続が難しいのであれば、多目的スペースを広げて、軽食喫茶や売店等を設け、その場で握ったおにぎりや、深川産そば(温・冷)、りんごジュース(コーヒー・紅茶)等が提供できないか。</p> <p>また、売店には深川の特産品を置いて購入できるようにしてほしい。</p> <p>売店を移動した跡などに執務室の一部を移動することができれば、これらのことは可能と考える。</p>	参考	<p>食堂・売店・理容は職員の福利厚生施設として庁舎の使用を許可しています。</p> <p>食堂は、1階でメニューを紹介するなど市民の利用を呼び掛けていますが、庁舎周辺に飲食店等が複数あることも要因となり、利用は限定的になっているのではないかと考えます。</p> <p>なお、食堂出店者に、福利厚生会を通じて新庁舎への出店の意向を確認したところ、継続は難しく出店の意向は無いと伺っており、近年の出店状況等から新たな出店者も期待できないところです。</p> <p>また、厨房を含め広いスペースと専用の設備等が必要となり、多額の経費を要するため、新庁舎には食堂を設けない考えですので、ご理解をお願いします。</p> <p>市が出店者へ支援することは、他の事業者との公平性が保てなくなりますので難しいとは思いますが、貴重なご意見として受け止めさせていただきます。</p> <p>軽食喫茶等については、給排水や換気、電源等の必要な設備を今後の実施設計で検証し、設置費用や運営形態、出店見込み、需要なども勘案しながら、福利厚生会等とも協議してまいります。</p> <p>売店を多目的スペースに移動した場合は、職員の昼食購入等で正面玄関付近が混雑し、市民の利用に不便をかける恐れがあるため、売店を移動することは難しいと考えています。</p> <p>また、売店での特産品の取扱いは、福利厚生会を通じて出店者と協議します。</p> <p>執務室については、業務の関連性に配慮するとともに、各課の職員数や文書保管量等も考慮して必要最小限の面積となるよう配置したものです。仮に執務室の一部を移動すると、課の分散や職員・文書等の配置スペースの不足等につながり、市民サービスや業務執行の低下を招く恐れもあるため、難しいと考えています。</p>

10	<p>〔市×民 合流型の多目的スペースの設置〕 普段からの「市」と「(市)民」そして「第三者」(ボランティア、専門家等)との、任意でフリースタイルな自然な形での交流の場が必要。 開放型のシミュレーション・ゾーンの設置。 防災基地機能。日常的、ランダムに参加でき、自主的に防災を学べ、実演できる場。 「防災学習」という考え方。防災を通して異文化コミュニケーション、強いては対多国人対応の可能性。(東京オリンピックで検証できる絶好の機会。(ブラックアウト災害時における個人的体験、長期化すれば“プチパニック”を起こしかねない兆候を感じた。) 「一日防災体験」(イベント合同型・日常自由型)など。 防災のネットワーク化。「近隣市町村」「他県」全国ネット。(東京及び中枢都市がマヒした際に後方的支援体制を強化化できる。) 情報・ノウハウ・マニュアルの共有、被災支援ネットワークの構築。 (関連)フードロス対策、家庭菜園ネット、買物難民、地域群落をつなぐ(空き屋対策)など。</p> <p>発端が《防災対策》から始まっている(全国的な)国の立案なのに、その割には防災対応になっていない。ハードの側面で「防災・危機対策、対応室」が無い。</p> <p>ただ古い建物を新築にした様な発想では、今後いざという時の国(策)への説得力が薄く現況の様な予定外の国難(コロナ)下における万一の“助成金減額”等の事態に、他市町の後回しにもなりかねない懸念がある。</p> <p>「新深川市役所」くらいの意気込みが必要。 計画書では“建物自体を守る”構造と規準を満たしている事になっているのだから、後は、“市民を守る”ソフト・デザインを構築すれば、内外共に「防災対策」への説得力とPR効果を期待できる。</p> <p>「防災がつよい」「被災がつよい」は、人口増へとつながる要因の一つとなり得る。 《防災テーマ》は、企業連携・産業クラスター化が望める。 「防災」から様々な学習を展開できる(防災と教育の一石二鳥)。 上記を複合化させた各種イベントを展開できる。 平時・日常では「防災の能動的プラス転用」→新型の準経済サポート的応用。 ヘリポートを造らなければ、“ドローンポート”を設置する。(ピンポイント・サポーターの機能) 危機対策室スペースが無い。(どこかの部署での兼任はできない)責任性を一元・一局化しない、分散させるなら組織の外側に便宜上の比重をつくる。別室を設け対策部署とする(平時/緊急時の切替)外部利用者がスタッフ。本部と別室とのフィードバック、相乗効果を期待できる。効果的な防災対策・対応が可能。</p>	<p>新庁舎1階には市民が自由に休憩や待合に活用できる多目的スペース等を計画しており、交流の場として活用することも可能と考えております。</p> <p>なお、昨年度の市民アンケート調査の回答では、「施設整備や維持管理のコスト抑制」という回答が多かったことから、新庁舎基本設計では、建設費を抑えるため、必要最小限の面積となるよう検討を重ねてきたところであり、開放型のシミュレーション・ゾーンの設置は難しいものと考えております。</p> <p>また、新庁舎は災害時に防災拠点としての機能が十分に発揮できるよう高い耐震性を有する構造とし、災害対策室など必要な機能を設ける計画としています。</p> <p>防災に関して様々なご提案をいただきましたので、防災担当の自治防災室にも伝達し、貴重なご意見として受け止めさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;">その他</p>
----	--	--